

ブウツ ええ、テイブルかけ。——魔法の、これ、テイブルかけです。(ひろげてみせる)

ブウツのおかアさん 模様のあるテイブルかけ、模様のないテイブルかけということはあるけれど、魔法のテイブルかけということは、おかアさん、まだ聞いたことがない。……

ブウツ でも、そうなんです。——それにちがいないんです。——なにかたべたいとき、こうやって、これを、テイブルの上にかけて、そうしてなんでもほしいものの名さえいえば、ひとりですぐそれが出てくるんです。

ブウツのおかアさん そんなことが、おまえに……

ブウツ できるんです。——ほんとうにできるんです。——うそだと思ったら、おかアさん、やっていま見せてあげます。

ブウツのおかアさん ……

ブウツ そうだ。——すぐに、じゃア、お夕飯にしましょう。——ぼく、ほんとうをいうと、けさからまだなんにもたべないんです。——あんまりそいでなんにもたべなかつたんです。(そういいながらテイブルかけをテイブルの上にかける)——おかアさんはなにがいいんです？

ブウツのおかアさん わたしはなんでもいいよ。

ブウツ なんでもいいじゃアいけません。——なんでも好きなものをいったらいいんです。

ブウツのおかアさん でも、わたしにはわからない。

ブウツ 腸詰ちようづめはどうです。——おかアさん、ふだん、腸詰が好きじゃありませんか？

ブウツのおかアさん ああ、わたし……

ブウツ 腸詰は、けど、煮たにのがいいんですか？ やいたのがいいんですか？ 揚げたのがいいんですか？——それからじゃがいもいりますか？ それともじゃがいもはいりませんか？

ブウツのおかアさん 同じことなら、わたしは、あげたのがいい。——じゃがいもあつたほうがいい。……

ブウツ じゃア、そうします。——すぐに出します。——あげた腸詰を二にんまえ。——じゃがいもをつけて。……(まえの幕でやったようにやる。——が、どうしたのかまえの幕のようにすくまなく出てこない。——間をおいてもう一度やる)

あつたかいあげたての腸詰を二にんまえ。——じゃがいもをつけて……

間。——やっぱり出てこない。

ブウツのおかアさん だめじゃアないか、おまえ……(わらう)

ブウツ いいえ、だめなことはないんです。——ちゃんと出てくるんです。——(あらためて、またあつたかいあげたての腸詰を二にんまえ。——じゃがいもをつけて……(まえよりも大きな声を